

いちのみやの芸術文化

■ **「特集」** 木製鐙あぶみについて

■ 一宮市芸術祭アルバム

■ 第81回一宮市美術展(報告)

■ **「エッセイ」** 短歌へのお誘い

短歌部門 真清短歌会 富板 美子

■ これからの催し



木製鐙(一宮市博物館所蔵)

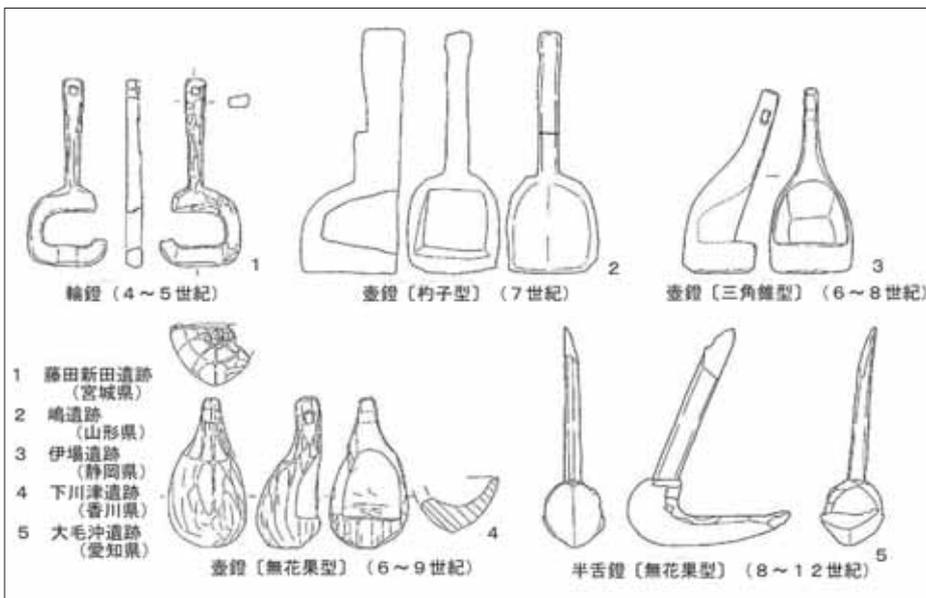
2023.12

第62号

一宮市芸術文化協会

すが、木製の燈は出土例があまりありません。全国的には、五十遺跡六十三例の確認があり、愛知県では一宮市以外にも三遺跡で見つかっています。

木製燈は、その形状によって主に三つに分類されます。



▶ 燈の分類(『日本馬具大鑑』鈴木友也より)

- (一) 輪燈 古墳時代にみられる形態
- (二) 壺燈 古墳〜奈良時代にみられる形態
- (三) 舌燈 奈良時代以降にみられる形態

大毛沖遺跡の木製燈は「舌燈」と呼ばれるタイプに分類されます。これらのものは九〜十世紀前半代に位置付けられます^(註二)。また、その他の特徴としては、左足用の燈であることや、全面に黒漆が塗られていることなどが挙げられます。他の木製燈でも、漆を塗っている例はいくつかあり、

こうしたことから大毛沖遺跡の木製燈も丁寧な作

ることを意識したものである

と考えられます。加えて、木製燈は当時の役所的な役割を担う場所から出土する傾向も指摘^(註三)されています。

大毛沖遺跡では、木製燈と同じ時期の土器に文字を書いた墨書土器が出土しています。こうした資料の出土からは文字を書ける人物がいたと推測できます。木製燈の出土と合わ



▲ 墨書土器(大毛沖遺跡出土)

せて考えると、遺跡周辺に、身分の高い人物がいたことや、役所的な場所があったことの可能性を指摘できます。

遺物は語る

燈は、材質や形状は昔のままではありませんが、現代でも使われている道具です。今回取り上げた木製燈は、古代の人間が使っていた道具や技術が我々の生きている時代にも息づいていると感じられる資料といえるのではないのでしょうか。

(一宮市博物館 学芸員 中尾真琴)

(註一) 水ノ江 和同 二〇二〇『入門 埋蔵文化財と考古学』同成社

(註二) 愛知県埋蔵文化財センター一九九六『大毛沖遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 六六

(註三) 秋田県埋蔵文化財センター二〇一五『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要二九』秋田県埋蔵文化財センター

主要参考文献

- 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 二〇一五『箕輪遺跡二四』新潟県埋蔵文化財調査報告書二五四

8回 芸術祭

(9・10月分)

音楽部

オータムコンサート



9月23日(土・祝)
木曾川文化会館
ファミリーアンサンブルおとのは

濃尾岳風会一宮支部一吟会



9月24日(日)
木曾川文化会館 尾西信金ホール
濃尾岳風会一宮支部

第22回一宮市民音楽会



10月15日(日)
尾西市民会館
一宮第九をうたう会

第47回一宮合唱祭



10月29日(日)
尾西市民会館
一宮合唱協会

社会文化部

第78回一宮市民華道展



10月28日(土)～29日(日)
一宮スポーツ文化センター
一宮華道連盟

第81回 一宮市美術展

11月16日(木)～19日(日)、一宮スポーツ文化センターで「第81回一宮市美術展」が開催されました。

市内を中心に近隣市町村や県外からも多数作品が寄せられ、審査の結果、入賞となった135作品をはじめ482作品が展示されました。

期間中は、約3,000名の方々が来場され、様々な個性と感性を持つ作者の作品を熱心に鑑賞されていました。また、金曜日は終了時間を午後7時まで延長し、お仕事帰りの方などが来場されていました。

会中には審査員によるギャラリートークが行われました。入賞作品などの解説に、来場されていた方々はとても熱心に耳を傾けていました。

市長賞を受賞された方は次のとおりです。なお、掲載順は順不同です。(敬称略)

市長賞

日本画	湯佐々	浅木	真奈	美海
洋画	島田	田岡	恵加	寿子
洋画	福樋	岡口	侑恵	加彦
彫刻・立体	佐小	橋倉	勝妙	彦子
工芸	内倉	出橋	照紅	江華
デザイン	近木	藤村	澄由	雨果
書			晴	子
書写				
真				



ギャラリートーク(彫刻・立体:18日) 解説 櫻井真理さん

市長賞受賞作品は一宮市博物館で行われた「いちのみやアートアニュアル2023」(12月2日(土)～17日(日))でも展示されました。

「第78回 一宮市芸術祭」を9月から市内各所で開催しました。各団体の様子をご紹介します。次号も引き続き掲載予定です。

文学部

一宮市尾西俳句大会



10月9日(月・祝)
尾西生涯学習センター
尾西俳句会

狂俳大会



10月14日(土)
葉栗公民館
一宮狂俳壇連盟

一宮現代詩発表会



10月22日(日)
一宮スポーツ文化センター
一宮現代詩協会

美術部

第22回一宮写真協会選抜写真展



9月9日(土)～18日(月・祝)
博物館
一宮写真協会

第57回麗筆会展



9月22日(金)～24日(日)
一宮スポーツ文化センター
麗筆会

一宮美術作家協会展2023



9月23日(土・祝)～10月1日(日)
博物館
一宮美術作家協会

第24回桃墨会展



9月25日(月)～30日(土)
尾西信用金庫事務センター
桃墨会

第19回あざみの会絵画展



9月28日(木)～10月1日(日)
一宮スポーツ文化センター
あざみの会

第32回みつゑ会水彩画展



9月28日(木)～10月1日(日)
一宮スポーツ文化センター
みつゑ会

土筆の会展



10月5日(木)～8日(日)
一宮スポーツ文化センター
土筆の会

山ぶどうの会展



10月5日(木)～8日(日)
一宮スポーツ文化センター
山ぶどうの会

水絵の会展



10月16日(月)～20日(金)
尾西信用金庫事務センター
水絵の会

第24回能・狂言面作品展



10月24日(火)～29日(日)
玉堂記念木曾川図書館
尾西面打会

短歌へのお誘い

短歌部門 真清短歌会 富板 美子

月に一度第二日曜日にスポーツ文化センターで、市民短歌教室が開かれているのをご存じでしょうか？

市民短歌教室では真清短歌会のボランティアの皆様の協力のもと、意見の交換、持ち寄った短歌の批評、短歌指導などを行っています。

真清短歌会は、市民短歌教室のほか、新年短歌大会、七夕まつり短歌大会、一宮市芸術祭参加市民短歌大会と、年に三回の短歌大会を行っています。

年に四回の同人誌「蒼原」の発行も楽しみです。会員が八首の短歌を投稿し、選者の方に講評して

いただいております。他にエッセイなども投稿しており、令和六年の一月号では、昭和二十年の第一号から数えて通算第五百号となります。

真清短歌会では過去に宮中の「歌会始」の預選者（詠進歌の中でも特に優れた「選歌」の作者）を多く輩出しております。現在も多くの方が預選者になるべく、毎年挑戦しております。また真清田神社の短冊祭や観月祭では、奉仕献詠しております。こちらにも真清短歌会から多くの方が預選歌に選ばれています。

吟行会も楽しみの一つです。こ

◆新年短歌大会 市長賞

川ひとつ越えゆくごとによよ増す伊吹の威容白き頂き、

高橋 かがり氏

◆七夕まつり短歌大会 市長賞

心送り添い老を曳く犬は振り返りつつ歩調を合わす

大野 晶子氏

◆一宮市芸術祭参加市民短歌大会 市長賞

残された柘植の御櫛は祖母の手の代わりとなって私を撫でる

飯沼 玲奈氏



同人誌「蒼原」

の数年は、行われていませんが、バスでの行事に替えてほかの案を模索中です。

短歌は基本的には三十一文字の定型を守りながら自由に思いを新にしています。自分の胸の内を新たに発見したり、うつつぶんを晴らしたり、一首でき上がった時の達成感は何物にも代えがたいものです。活字になった自分の歌を読むのも嬉しいものです。短歌を詠う題材には頭を悩ませるものではありませんが、街路樹に見かけた鳥、鉢植え仕事に手を止め見上げた空、

冬なら遠く見える伊吹山、春には咲き始める花々、家族との会話の楽しいやり取り、そしてその中に自身の感情を入れ込めば言うことはありません。

それと、歌が日記の代わりになるという愉しみもあります。歌を読み返すことでその当時の事をありありと思い返すことが出来ます。コロナ禍で、なかなか外出がままならなかったときも、メモ用紙とペンがあれば、思いを一首にしてストレスの解消にもなりました。

今迄短歌に縁のなかった方、また前々から興味のあった方、一度ぜひ市民短歌教室（八頁参照）を覗いてみてください。



七夕まつり短歌大会（令和5年7月）



「On your terrace」 大島 麻琴

県文化協会連合会の催し

西尾張部芸能大会

日時 令和6年1月21日(日)

正午～

会場 扶桑文化会館(丹羽郡扶桑町高雄福塚200)

入場料 無料

内容 本協会に所属する一宮三曲協会(邦楽)をはじめ、西尾張部10市町村の文化協会の代表が詩吟やダンス、バイオリンアンサンブルなどを披露します。

第48回愛知県文連美術展(報告)

10月24日(火)～29日(日)、愛知県美術館ギャラリーにて、第48回愛知県文連美術展が開催されました。

本協会からは15名の方が出品され、寺澤侑見子さん(洋画部門)が特選に、櫻井暁子さん(洋画部門)、桐山要さん(書部門)が奨励賞に選ばれました。



寺澤侑見子さん「Sincerely」

愛知県民茶会(報告)

10月22日(日)、長久手市文化の家を会場に、愛知県民茶会が行われました。愛知県文化協会連合会と長久手市文化協会のご尽力により、5つの文化協会の皆様が設席をされ、当日は約1,100人の方が来場されました。

『いちのみや文芸』を発売

10月14日(土)に『いちのみや文芸2023』を発売しました。随想、随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、狂俳、川柳の7部門あわせて235名の方から寄せられた1,832作品を掲載しています。ぜひ一度、手に取ってお読みください。

価格は1冊800円です。ご希望の方は事務局(市教育委員会生涯学習課)までお尋ねください。

2023 いちのみや文芸

随想・随筆・現代詩・漢詩・短歌・俳句・川柳・狂俳



一宮市芸術文化協会

加入団体の
催し

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(78)50002

日時 1月13日(土)・2月10日(土)

3月9日(土) 午後1時～

会場 葉栗公民館

内容 各自10句持参、互選により優秀作を記録に残します。(初心者歓迎)

参加料 無料

『能・狂言面の制作』

【問合せ先 一面会】

☎(69)7372

日時 1月13日(土)・27日(土)

2月10日(土)・24日(土)

3月9日(土)・23日(土)

午前9時30分～正午

会場 アイプラザ一宮第5会議室

内容 実地指導(初心者歓迎)

参加料 月3,000円

(見学は無料)

申込み 当日直接会場

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(85)7074

日時▼1月14日(日)・2月11日(日)

3月10日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼真清短歌会委員により実作指導します。

(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼初参加の方は開催日の

3日前までに電話で生

涯学習課☎(85)70

74)

『瀟聲會作詩教室』

【問合せ先 一宮漢詩瀟聲會】

☎(78)7953

日時▼1月16日(火)・2月6日(火)

午前10時〜

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の作り方の指導をはじめ、持ち寄った創作

詩の添削の検討を会員間

で行います。

(初心者歓迎)

参加料▼年3,000円

申込み▼当日直接会場

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73)0282

日時▼1月21日(日)・2月18日(日)

3月17日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼当季雑詠2句を一宮市民俳句教室委員が指導します。(初心者歓迎)

(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼開催日の前月末(必着)

までにハガキにて、参

加希望日・当季雑句2

句(初参加の方は希望

者のみ)・郵便番号・住

所・氏名(ふりがな)・電

話番号・参加経験の有

無を記入の上、送付(〒

491-8501 本庁舎生涯学

習課)

『瀟聲會漢詩講読会』

【問合せ先 一宮漢詩瀟聲會】

☎(78)7953

日時▼1月27日(土)・2月24日(土)

3月23日(土) 午前10時〜

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の基本的な読み方をはじめ、作者の時代背

景にも触れながら初めての方にも分かりやすく

「唐詩三百首」を解説し

ます。(初心者歓迎)

講師▼三島徹さん(東洋文化振

興会会長)

参加料▼月2,000円

申込み▼当日直接会場

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(44)7598

日時▼1月28日(日)・2月25日(日)

3月24日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼自由吟および課題吟を一

宮川柳社委員が指導しま

す。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼初参加の方は開催日の

3日前までに電話で生

涯学習課☎(85)70

74)

『新年短歌大会』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(51)3570

日時▼1月28日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼事前募集した中から互選

により優秀作を表彰しま

す。

参加料▼500円(見学無料)

申込み▼1月10日(水)までにハガ

キにて雑詠一首提出

『令和5年度(公社)中部日本書道会一宮支部講演会』

【問合せ先 (公社)中部日本書道会一宮支部】

☎090-4265-6098

日時▼2月25日(日)

午後4時〜5時30分

会場▼一宮スポーツ文化センター

演題▼「隷書を学ぶ」―篆書・隸

書・草書・行書・楷書の

五体書の変遷―

講師▼横井宏軒さん(公益社団

法人 中部日本書道会副

理事長)

入場料▼無料(一般聴講歓迎します)

申込み▼当日直接会場

令和5年度文化講演会は、諸般の事情により、中止となりました。

●本誌をご覧になり、ご意見

ご感想などございましたら

お気軽に下記事務局までお

寄せください。

【題 字】武 山 翠 屋
【編集・発行】一宮市芸術文化協会

【連絡先】一宮市芸術文化協会事務局(市教育委員会生涯学習課内)
〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL 0586-85-7074 / FAX 0586-73-9213